

新まちづくり計画 ( H16 ~ 18 ) 事業総括調書

施策体系コード	4-1-4	事業名	大型動物化石発見に伴う総合調査事業
担当	観光文化局文化市民文化課 三浦 211-2261		
全体計画 ( 当初 )			
事業内容	平成15年8月、札幌市内ではじめて確認された脊椎動物化石(カイギュウ類)の発掘調査及び、この生物が生息していた後期中新世を含む札幌の古環境を地質学、年代測定学、花粉分析学等の関連諸科学を結集して総合調査し、その成果を報告書にまとめる。収集された資料及びデータは札幌の過去の姿の一端を実証的に明らかにする体系的な博物館資料であり、札幌市の財産として保管する。なお、多くの市民が協働で札幌という地域の過去を探求し、理解してもらえるような多様なメニューを用意し、事業への参画意識を高める。		<年度別の事業内容> 16年度:調査検討会議(調査体制の立ち上げ、調査概要の設定)、予備探査、発掘調査、市民報告会(フォーラム/シンポジウム)等。 17年度:地史の変遷を明らかにするための本格調査・資料分析・整理、市民への報告会。 18年度:調査・研究、資料整理、成果の取りまとめ、報告書、市民への報告会。
	平成16年度事業内容(決算)		平成17年度事業内容(決算)
事業内容(量・場所・規模等)	(1) 資料収集 調査収集された資料を博物館活動センターの資料として、分類・整理し収蔵した。 (2) 調査・研究 検討会により調査計画を策定、調査・連携体制構築。 カイギュウの発掘調査を市民参加型で実施。 カイギュウの出土地層の年代と堆積環境の調査・分析を実施(サンプリング、年代測定、微化石等分析)。結果、カイギュウの「ヒドロダマリス属」としては日本最古級の化石であることや生息当時の海の様子的一端が判ってきた。 総合調査の経過を映像に記録。 (3) 普及交流事業 市民参加の体験学習を兼ねて調査地点の化石発掘を実施するほか、調査地点及び周辺の市民見学会、説明会などを実施。 調査報告会を、多数の市民に公開する形で3月に開催。 調査や整理に積極的に携わることができる市民ボランティアを育成するための養成講座を開催。 (4) 調査速報展 調査の途中経過や出土資料などを随時博物館活動センターで展示。	(1) 資料収集 発掘・調査により収集された資料を博物館活動センターの資料として、分類・整理し収蔵。 (2) 調査・研究 調査計画を調整。カイギュウの学術的研究。 鯨類化石の発掘箇所の調査及び生痕化石調査を市民参加型で実施。総合調査の経過を映像に記録。 カイギュウ化石・鯨類化石の出土地層の年代と堆積環境の調査・分析を実施(サンプリング、年代測定、微化石等分析、貝化石等の調査)。 札幌産カイギュウの原骨格標本作製。 当時の地形の変動の経過を明らかにするため、豊平川周縁の山塊形成時期を調査、分析(八剣山、砥山、藻岩山などの年代の測定…H17、18で予定)。 (3) 普及交流事業 市民参加の体験学習を兼ねて化石発掘調査を実施したほか、調査地点及び周辺の市民見学会、説明会などを実施。 調査報告会を、多数の市民に公開する形で開催。 (4) 調査速報展を開催。 調査の途中経過や採取資料などを随時博物館活動センターなどで展示。	
事業内容(量・場所・規模等)	平成18年度事業内容(決算)	評価(成果)	
	(1) 資料収集 発掘・調査により収集された資料を博物館活動センターの資料として、分類・整理し収蔵。 (2) 調査・研究 調査計画の調整、報告書の作成。 カイギュウの学術的研究。 総合調査の経過を映像に記録。 カイギュウ化石・鯨類化石の出土地層の年代と周辺の堆積環境の調査・分析を行った。 札幌産カイギュウの骨格標本作製(1次資料)。 当時の地形の変動の経過を明らかにするため、豊平川周縁の山塊形成時期を調査、分析(八剣山、砥山、藻岩山などの年代の測定…H17、18)。 (3) 普及交流事業 市民参加の体験学習を兼ねて化石採取会を実施。 調査報告会を、多数の市民に公開する形で開催。 調査の途中経過や採取資料などの速報展は随時博物館活動センターなどで展示。	大型海生哺乳類化石の発掘調査を実施し、体系的資料の収集と、調査を進めることにより、サッポロカイギュウの化石が「属」としては世界最古のものであることを明らかにすることができた。札幌から内外に学術的に貴重な情報を発信できた。 また、調査の進展により、いままで具体的に明らかではなかった札幌の太古の自然環境とその変遷についての新たな事実を明らかにすることができ、太古の歴史に対する市民の関心や認識を深めることができた。 市民の参加や関係機関の連携、協力を促進することができた。 札幌が地質学的に貴重なフィールドであることを明らかにした。	
		課 題	
		調査で収集された体系的資料や学術的情報を適切に整理、保存し活用していく必要がある。 ・サッポロカイギュウの学術的研究を継続し、研究成果を引き続き学会等に発表していく必要がある。 ・サッポロカイギュウが生きていた時代前後の自然環境とその変遷に係る調査・研究を継続し、札幌の基盤形成の過程や自然環境の変遷史を構築していく必要がある。	
19年度以降の方向性・事業の予定			
本総合調査成果の積極的な活用を図る。 サッポロカイギュウの学術的研究の継続。 サッポロカイギュウが生きていた時代を含む、札幌の自然環境の変遷史を構築していく必要がある。			

新まちづくり計画（H16～18）事業総括調書 （単位：千円）

施策体系コード	4-1-4		事業名	大型動物化石発見に伴う総合調査事業		
---------	-------	--	-----	-------------------	--	--

事業費の推移

項目		16年度	17年度	18年度	計	進捗率(%)
計画	事業費	10,800	10,800	10,400	32,000	-
	財源内訳					
	国・道支出金				0	-
	市債				0	-
	その他				0	-
	一般財源	10,800	10,800	10,400	32,000	-
実績	事業費	10,717	9,856	9,290	29,863	93.3
	財源内訳					
	国・道支出金	0	0	0	0	-
	市債	0	0	0	0	-
	その他	0	0	0	0	-
	一般財源	10,717	9,856	9,290	29,863	-

計画との差異（予算・事業内容・規模・時期等）

[全体]

項目	15年度末 （現状）	16年度末 （実績）	17年度末 （実績）	18年度末 （実績）	18年度末 （目標）

関連予算事業内訳

予算事業名(小事業名)	経・臨 臨時	枠内外 枠外	16年度	17年度	18年度	計
大型動物化石総合調査費			10,717	9,856	9,290	29,863
						0
						0
						0
						0
						0
						0
						0
						0
						0
						0
						0
						0
						0
						0
						0
						0
						0
						0
						0
計			10,717	9,856	9,290	29,863